



日本一のキク産地を確立した 電照によるキク周年栽培



キクの電照栽培



選定されたキク品種「精雲」

（豊橋農業技術センター開発）

背 景

愛知県のキクは作付面積、出荷量、産出額で全国1位を誇ります。

キクは日長が短くなると花を咲かせる短日植物です。この性質を利用して、秋冬作（11～4月）は秋ギクを夜間に電照し、開花を遅らせる電照栽培が行われていました。夏作（7～9月）は、暖地においてキクの品質が低下しない開花調節技術がなかったため、主にメロンが栽培されていました。

一方、耐暑性のある夏ギクについて、1980年頃に日長と開花に関する研究が進みつつありました。

成 果 の 内 容

高温期に電照栽培が可能な夏ギク品種の選定とその栽培方法について検討した結果、夏ギク（現在では夏秋ギクに分類）「精雲」を選定し、それまで出荷が困難だった7月から9月までの開花調節技術を開発しました。

愛 知 県 農 業 へ の 貢 献

夏ギク「精雲」の開花調節技術の開発により、キクの周年生産が可能となり、日本一のキク産地である愛知県の地位が不動のものとなりました。

なお、この技術は愛知県だけでなく全国に普及し、日本のキクの周年生産の礎を築きました。

（東三河農業研究所）